

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600891		
法人名	株式会社 無限倶楽部		
事業所名	グループホーム 幸福の里あすか		
所在地	苫小牧市錦岡647-14		
自己評価作成日	平成23年10月27日	評価結果市町村受理日	平成24年2月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600891&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者1人ひとりに合った、(生活パターン)サービスの提供、例えば入浴時間、外出、外泊、家族とのつながりの支援、グループホームという環境の中で、なるべく閉鎖的にならないように、行事などでの、外出、地域とのつながり、(町内会とのつながり、お店、買い物、食道での外食)、季節感を感じてもらえるような食事、行事の提供等。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、開設して6年が経過しています。ホームの課題である「地域の方々との交流」について、職員は解決に向けて協議しており、近隣の方々への挨拶から見直しを図り、一年を経て、運営推進会議や、災害対策、ホームの行事等に参加と協力を頂き、職員、家族は感謝の言葉を述べています。お盆休みを利用し、利用者、家族、地域の方々との交流を図るため、8月に開催される「あすか祭」に備え、「もう少しでお祭りが来る、沢山のお客さんが来てくれるから」と、利用者が草刈りをし、家族や町内会の方々との触れ合いを楽しみにしています。58歳から102歳になられた利用者の方々に、心身に寄り添い、ホームの質向上に向けて、切磋琢磨している「グループホーム幸福の里あすか」です。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の他、1Fユニット独自の理念を、スタッフ全員で構築し、内部研修会や掲示する事で意識し、それに沿ったケアの提供に努めている。	法人理念、ケア理念に加え、職員は、利用者の立場に置き換えて策定した、各ユニット理念が、日常業務で反映されているかを、会議等で確認をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、事業所の行事の参加の呼びかけ、そして、日々の地域の方たちへの、あいさつなど、日常的にふれ合うよう努めている。	町内会行事（敬老会、防災訓練）、ホーム行事（祭、避難訓練）、幼稚園の運動会見学、ボランティア受け入れ等で、地域の方々と交流を深めています。更に、認知症サポーター養成講座を計画し、ホームの理解に繋がる取り組みに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバンメイトとなり、地域の方々、ご家族、その他、事業所と関わる人たちに、認知症の理解を深めて頂けるよう、サポーター養成講座を開催し、今後も活動を展開していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、参加出来なかった職員には、ユニット会議にて報告、把握し、意見を出し合い、サービス向上につなげていく。	市・包括センター職員、町内会、家族代表が参加の下、年6回開催し、運営報告、外部評価での課題、災害対策等が協議され、内容は、職員、家族に報告しています。町内会長から、市に、ホーム周辺の草刈りの要請をして頂きました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議・避難訓練等の参加以外に連絡会にて、じ情報を頂いたりし、市町村との連携を築くよう、取り組んでいる。	行政とは、連絡協議会や認定更新時に情報を交換しています。ホームの課題に対しても密に連絡を取り合い、助言や提案を頂き、ホームの質の確保に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修会にて、身体拘束について、正しく理解するとともに、日常生活において、夜間の戸締り以外では、施錠をしない等、身体拘束をしない、ケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けて、外部・内部研修で理解を深め、日々の業務や会議等で、拘束にあたらないかの確認に努めています。投薬や施錠を含め、身体拘束をしないケアを実践しています。不意の外出に備えSOSネットワークに登録しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会にて、虐待について正しく理解し、確認し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修会で、学ぶ機会を持ち、理解するよう努めているが、関係者と話し合ったり、活用し支援するような、実践には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、ご家族に何度か来て頂いたり、自宅（病院等）に訪問する等を繰り返し、理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会代表に運営推進会議に参加して頂き、意見、要望を表せるよう努めている。	利用者や家族とは常にコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りに心掛け、日々の関わりでの会話や、家族来訪時、家族宛の便りや電話、外部・内部の相談窓口の周知等で、要望や苦情を把握し、課題は迅速に解決策を講じています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の際や、日常業務の中で、コミュニケーションを図り、意見交換をしながら、意見の反映に努めている。	代表者、管理者は、日々の業務や会議、個別面談、更に、会議時に食事会を兼ね、職員が、意見を言いやすい場面作りに努めています。表出された要望や提案を受け止め、就業環境の整備を含め運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの段階に応じた、研修への参加や、労働時間など、環境、条件が整備される事により、各自が向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人ひとりの力量に合わせての、内部研修の実施や、資格取得に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所での行事への参加や、連絡会開催への参加など、交流が深められるよう、ネットワークづくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面接を繰り返し実施し、信頼関係を築くよう努め、ご家族、前担当関係者等からも、情報を得るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	くりかえし、ご家族と面談を実施し、不安や、要望等を聞き、信頼関係を、築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集した上で、必要としている支援を、見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを見極め、生活の中で活かせるよう支援し、共に生きるパートナーとしての関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者より手紙を郵送し、現状を報告し、面会や、外出、外泊につながるよう、ご本人とご家族とのつながりの、支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけではなく、ご本人の大切な知人の方々にも、気軽に来て頂ける、環境作りに、努めている。	利用者が大切にしてきた、人や場所との関わりを、利用者や家族から情報収集し、関係継続の支援に努めています。訪問が困難な家族には、利用者宛の電話や手紙の依頼をしたり、利用者から家族宛の電話支援等で、絆を尊重しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等を把握した上で、利用者同士の、関わり、支え合いが、出来るよう、スタッフが、仲介に入る等、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じた相談や、支援が出来るような、環境、関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の、発言はもちろん、行動なども細かく、アセスメントし、思いや、意向の把握に努め、支援している。	利用者の思いは、生活歴や家族からの情報、日々の関わりでの会話や動作、職員の気付き等で把握し、その人らしい暮らしに繋がる支援が行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に収集した情報と、あらたな情報収集に努め、スタッフ間で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し大切にしながら、心身状態、有する力等、現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の記録を元に、カンファレンスで、検討、介護計画を作成し、振り返りを実施し、次の計画に、つながるよう、支援している。	介護計画は、利用者や家族の要望を傾聴し、医療関係者の意見や詳細な日々の記録を踏まえ、職員全員の意見や提案が反映されています。評価後、3～6ヵ月毎に計画の見直しや、急変時には、新たに計画しています。	介護計画と介護記録が連動することにより、細やかなケアサービスに繋がる取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性をスタッフ全員が理解した上で、実践、結果等を、記録に残し、見直し等に、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況や、家族の変化に合わせ、サービスの変化などを行い、柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方たちとの交流つながりを、大切に、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望する病院への送迎等の支援や、主治医と、ご家族とのつながり等も、支援するよう努めている。	利用者、家族の希望する医療機関の受診を、家族と連携を図りながら支援しています。週1回の訪問看護師による健康管理が行われ、情報は関係者の共有としています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談し、アドバイスを得るように、実践しているが、今後はもっと密に、利用者との情報を共有する工夫をする事が課題。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から主治医との連携に努めるとともに、ソーシャルワーカーとの連携にも努め、情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で十分な説明し、納得を頂いた上で、同意書を頂、医療機関、訪問看護とともに、チームで支援出来るよう取り組んでいる。	契約時に、重度化や看取りに向けた指針を説明し、理解が得られた時点で同意書を頂いています。これまで、看取りに近い事例があり、医療関係者、家族と情報を共有し、統一したケアが確立されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの作成や、救命講習の参加の他、内部研修にて、スタッフが確認し合い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル作成、確認とともに、地域の方々にも、参加して頂き、避難訓練を実施している。	消防署指導の下、市職員、町内会の方々の参加を頂き、夜間想定避難訓練を実施しています。更に、津波想定で、当ホームの避難誘導が町内会主催で行われ、訓練後に表出された課題を協議しています。	家族の方々に参加を頂いての訓練や、状況による避難場所の確保、系列の事業所との連携確認、災害備蓄品の準備等を早急に関係者と協議され、更なる災害対策の取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりをよく理解した上で、誇りや、プライバシーを損ねない、言葉かけ対応に努めている。	一人ひとりの尊厳を尊重し、トイレ誘導を含め、日々の関わりでも、言葉かけや対応には十分な配慮を心掛けています。個人記録も適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を、表現できるような環境、関係作りに努め、自己決定、出来るような、声かけ、問いかけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活パターンを把握し、入浴時間、起床時間等を希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の選んだ服を着て頂いたり、お化粧品など、おしゃれが楽しめるような、支援。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人ひとりの力に応じて、食事に関わる動作全般を、スタッフといっしょに、行っているとともに、季節感のあるメニューの考慮など、食事を楽しめるよう支援している。	利用者の好みに配慮したメニューを選び、食材が配達されていますが、利用者の希望や食欲に結びつくようアレンジして調理しています。利用者は、職員と食事作りを楽しみ、食卓を共にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェック、把握に努め、1人ひとりの状態、習慣に応じるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた、見守り、声かけ介助を実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるような声掛け促しを、工夫したり、体調不良などで、一時的におむつを使用した場合でもすぐに、外せるよう検討し、実践している。	一人ひとりの排泄パターンを、職員は共有し、声かけや誘導等で、トイレでの排泄支援に努めています。衛生用品の使用軽減や、布下着の着用が可能になった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・運動量とうを確保し、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	昼夜問わず入浴できるように努め、その都度ご本人に確認しながら、入浴して頂くよう支援。	毎日入浴出来ますが、利用者の希望を尊重し、午後の時間帯や、就寝前に入浴支援を行っています。入浴をしない日は、足浴や、状態によりシャワー浴で、清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムに合わせ、休息・安眠出来るよう支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬のファイルを作成し、把握するとともに、変化については、スタッフ間で情報を共有し確認、確実な服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の力に合った役割の確立、ゲーム、趣味活動の支援、外出での気分転換の支援等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、買い物他、行事を企画し、お花見や紅葉・外食を楽しんでいる、又ご家族の協力を得て、外出・外泊も実現している。	天候や体調に配慮し、散歩や買い物、菜園作業等で、外気に触れる支援に努めています。行楽地巡りなど、様々な外出行事を企画し、利用者の五感刺激や気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの力に応じて、お金を所持して頂いたり、管理や買い物に言った際の、支払い等を、見守る支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望が、あった時は電話をかけ、聞き取れない場合は、スタッフが内容をつたえたり、ご家族からの手紙をいっしょに読む等の、支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や掲示物により、季節感を取り入れる、工夫をしたり、室温、明るさ、家具の設置の工夫に努めている。	採光や空調に配慮された共有空間は、広々とした造りになっています。神棚や小上がりが設置された居間のテーブルは、食事のみならず、レクリエーションや四季折々の季節に合った作品作りに、また、卓球台にと活用されており、居心地の良い場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、小上がりやベンチを設置したり、独りなれる場所の確保や、利用者同士でゲーム等が出来るよう、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ物を、自由に配置して頂いたり、思い出の写真等かこまれて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	クローゼットが設置された居室は、利用者や家族の思いが反映され、一人ひとりの趣のある場所となっています。利用者の希望で、居室に鍵をかけている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し「出来ること」が継続できるよう、安全な環境作りに努めている。		